

木岡 たかしの熱い想い

市政レポート Vol.42 [2022.12]

- ◆税金の使い道 徹底的に監視します！
- ◆子育てにお金のかからない街にします！
- ◆高齢者が安心して生活できる街を実現します！



【私の選択 — れいわ新選組について —】

日々を普通に生きる私たち市民にとって必要な政党はどこか。と考え、れいわ新選組の一員として活動することを決断しました。

これまで川口市議会議員として15年余、わたし木岡は【社会の不正に沈黙しない】この思いをもって活動してきたと自負しております。至らぬところも多々ありますが、多勢に流されず同調圧力に屈せず、自分の意見を発信し続ける「モノ言う議員」であり続けようと取り組んできました。

残念ながら、政治の世界とは、長いものに巻かれ、権力者に忖度した方が楽ができる世界です。

現に森友学園、加計学園、桜を見る会などの事件では、権力者本人やそのお友だち、利害関係者は得をする一方で、国民は置いてきぼりにされたと感じております。さらに権力者とその取り巻きは、法に触れても『記憶が無ければ』捕まらないという現実を見せつけられました。

このように、いまの日本社会は、強い者はより強く、富める者はより豊かになり、その他大勢は苦しい生活を迫られる、そんな社会になってしまったと考えております。

社会全体も、ともすれば「自分だけ良ければ」「今だけ良ければ」といった風潮を感じます。【他者の痛みを感じ、他者に思いを寄せる】こうしたことがしにくくなっている世の中で、無関心でいてはいけない、そうした思いで日々活動していきたいと考えております。

『愛の反対は憎しみではなく、無関心だ』との言葉があります。お互いがお互いに関心を寄せあい、多様性と寛容性のある社会を目指します。

政党を移ることについてのご批判は当然だと思います。そうしたご批判も真摯に受け止めたいと思います。ただし、私自身の政治信条や信念を曲げたことはない点をご理解いただくと幸いです。

どうか引き続きのご意見、ご声援をどうぞよろしくお願いいたします。

木岡たかし [profile]

1976年(昭和51年)3月26日生 専修大学法学部卒業 家族は、妻と娘と息子

■略歴■

参議院議員の公設秘書を7年間つとめる。建設会社勤務をへて、2007年(平成19年)川口市議会議員選挙で初当選。2011年・2015年・2019年の川口市議会議員選挙で再選。現在4期目 川口市議会「立憲民主党・新風会」所属

【所属委員会】◎環境経済文教常任委員会 ◎地域活力・市民生活向上特別委員会 【保有資格】◎社会保険労務士 ◎宅地建物取引主任者

目次

P2 ◆給与も年金も減る中で、急激な物価高！いま必要なことは・・・。

◆(木岡の提案その1)介護保険料の引き下げを

P3 ◆(木岡の提案その2)国民健康保険税の軽減策の拡充を

P4 ◆(木岡の提案その3)児童手当の倍増を

◆子育て・教育・高齢者支援を最優先するために、ハコモノ事業の廃止・見直しで財源を作ります！

P5 ◆芝地区の「南浦和前川線」の進捗状況について

P6 ◆どうとう「戸塚差間線」の開通メドが立ってきました！

公式ホームページ

木岡 たかし



🐾 給与も年金も減る中で、急激な物価高！ いま必要なことは・・・。

給与や年金は増えないどころか減っているのに、急激な物価高によって日々の暮らしは大変になる一方だとの声をよく聞きます。私もよくスーパーに行くのですが、本当に色々な品物が値上がりしていると痛感します。

そんな市民の実態を無視するかのように岸田政権・自民公明の与党内からは、次々と市民負担を増やす方向での検討内容が聞こえてきます。

例えば・・・。

- ◆ 消費税を10%以上に増税
- ◆ 年金の受給開始年齢の引き上げ ⇒ その結果、年金をもらえる時期が遠のく
- ◆ 年金掛け金の納付年齢の引き上げ ⇒ その結果、基礎年金の保険料が約100万円アップ
- ◆ 65歳以上の高齢者が支払う介護保険料の引き上げ
- ◆ 介護サービス利用時の自己負担（原則1割負担）について、2割負担の対象者を拡大
- ◆ 75歳以上が入る後期高齢者医療制度の保険料の年間上限額の引き上げなど

国の制度自体の根本的な改善が必要ですが、**市民に一番近い基礎自治体である川口市政においてもやるべきことはあります。**

例えば、介護保険料や国民健康保険税の負担軽減措置の充実や、返済不要の奨学金制度の充実、児童手当の所得制限の廃止などです。

📢 木岡の提案その1 《介護保険料の引き下げを》

厚生労働省は10月、『一定の所得』がある65歳以上の高齢者が支払う介護保険料の引き上げを検討する案を正式に公表しました。この案の中にある『一定の所得』が問題で、高所得とは間違ってもいえない普通の高齢者の介護保険料まで引き上げようとしております。

給与も年金も増えない一方で、物価ばかりが上がっている現在、介護保険料の引き上げをすべきではありません。

この案の前提は、国県市の公的負担割合を1%たりとも増やさない前提となっています。そのため、市民負担ばかりを求める結果となっているのです。

例えば川口市においては、現在の介護保険料の設定方法を見直して、介護保険料の引き下げを行うべきです。同時に、国県市の公的負担額を増やすことが必要となります。市議会にてこうした提案をしていきます。

● 川口市の介護保険料の基準額は、埼玉県内の38市中で5番目に高い ●

【2022年度の介護保険料基準額（月額）の高い上位5市】

1. 戸田市・・・6,400円
2. さいたま市・・・6,034円
3. 加須市・・・6,031円
4. 羽生市・・・5,940円
5. 川口市・・・5,907円

※一番安いのは、鶴ヶ島市・・・4,500円

自治体ごとに人口も年齢構成も違うため一概に比較できませんが、**川口市には、まだ介護保険料の引き下げ余地があることは事実です。**

ちよつと一言

～介護保険料負担が増えれば、
医療費が増える悪循環に～

介護保険料が上がり、介護利用費負担も上がれば、介護の利用控えが起きてしまいます。

介護の利用控えが起きれば、健康維持にも影響がでるため、医療費が増えてしまうのです。

この点からも公費負担分を増やして介護保険料を引き下げるメリットがあります。



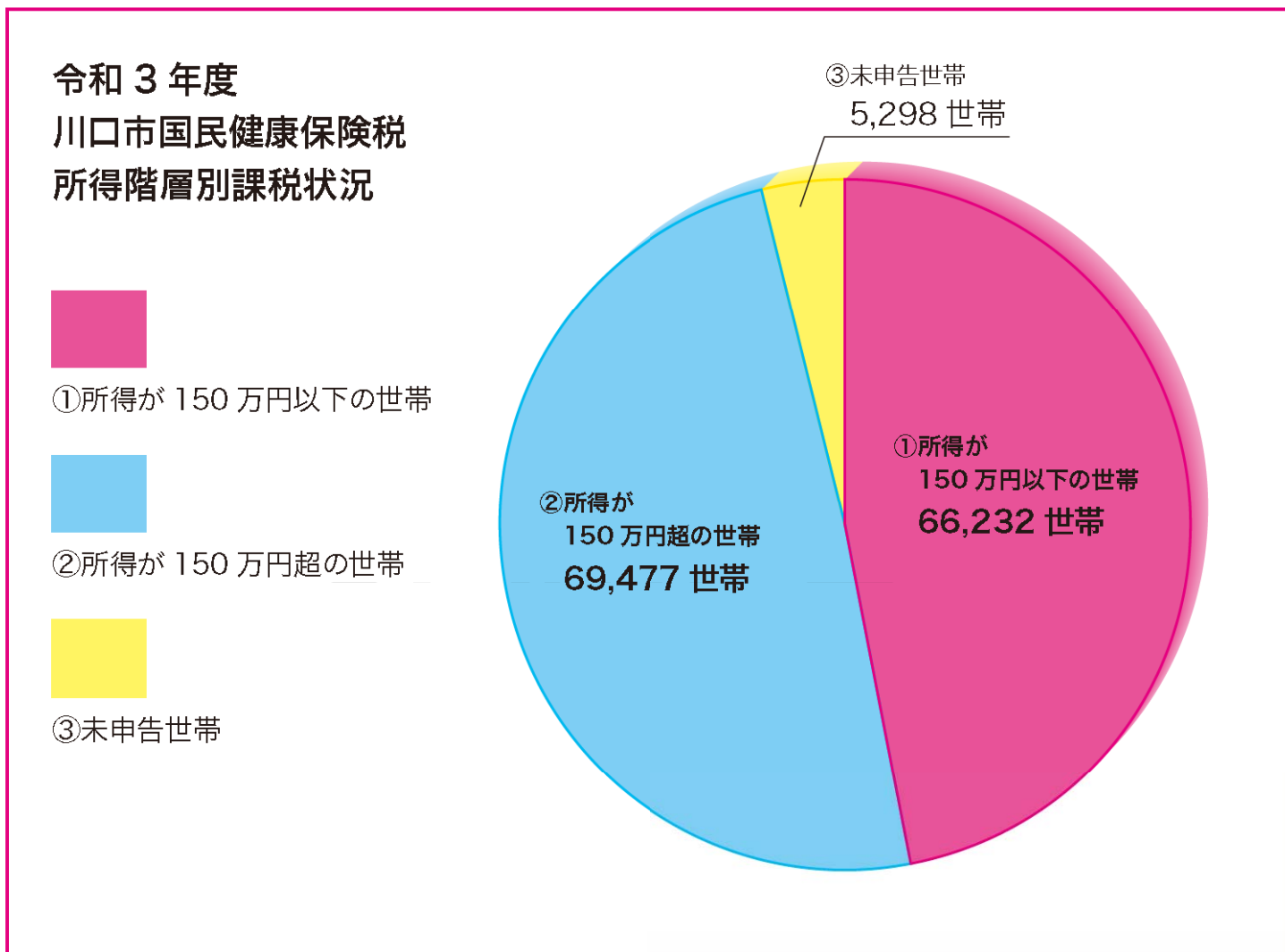
！ 木岡の提案その2 《国民健康保険税の軽減策の拡充を》

国民健康保険は、自営業者や学生、無職の方、前期高齢の退職者などが加入する制度で、川口市民の約23%が加入しております。

そもそも会社が保険料の半分を負担している社会保険とは違い、加入者本人が保険税全額を負担する制度が国民健康保険です。さらに、学生や無職の方、前期高齢の退職者など、所得が無かったり、決して高くない方が多く加入する制度ですから、国民健康保険の財政が厳しくなることは当然です。

現に川口市の国民健康保険に加入している世帯の半数は年間の世帯所得が150万円以下です。

急激な物価高の中で、ただでさえ負担の重い国民健康保険税が重くのしかかっていることは、世帯滞納率13.87%という滞納状況などからもわかります。



今こそ低所得者向けの保険税軽減策の拡充が必要です。

さらに、国県市の公的負担を増やすべきだと市議会にて訴えていきます。



！ 木岡の提案その3 《返済不要の奨学金制度の拡充&奨学金チャラの実現を》

～若者を大切にしない社会に未来はない～

資源のない日本において、国民のひとりひとりの力は社会の発展に欠かせません。その基礎となる教育を受けるとき、我が国の学費は非常に高額で、大学や専門学校などへの進学は贅沢品になってしまっています。

本当に学びたい学生が学べなかったり、学費のためにアルバイト漬けになってしまい勉強ができなければ、我が国の国力は落ちるばかりです。

勉強する意欲のある学生が、経済的事情で進学をあきらめないで済む社会にする必要があります。

そのためにも、貸付型ではない、返済不要の給付型奨学金が必要です。

本来、国の制度で実施すべきですが、現政権は後ろ向きですから、市民に身近な川口市で給付型奨学金を受けられる制度の提案を行っています。

同時に、低賃金を若者に押し付ける社会・労働構造の中で、社会に出た瞬間から多額の借金を背負い、大学等を卒業し就職しても、奨学金の返済に四苦八苦する若者が大勢います。

これからの日本を担う若者たちに社会で大いに活躍してもらうためにも、今ある奨学金をチャラ（返済免除）にすることも国に強く求めています。

事実アメリカでは、バイデン大統領が「学生ローン免除」を政策に掲げ、若者から多くの支持を得ています。

！ 木岡の提案その4 《児童手当の倍増を》

～物価高騰で『家計がとても苦しくなった』74%～

経済的に苦しい子育て家庭を支援しているNPO法人の調査結果が11月末に公表され、大きく報道されました。

物価上昇を実感する項目を尋ねる質問（複数回答）では、食費が99%、光熱費85%、日用品81%と、生活必需品全般に深刻な影響があることがよく分かる結果です。

そして、家計維持のため、「食費を減らしている」と回答したのは84%もあり、子どもの食事状況を尋ねる質問（複数回答）では、「外食を減らした」が67%、「おやつを減らした」が65%、「肉・魚を減らした」63%といずれも6割を超える深刻な状況が浮き彫りになりました。

急激な物価高は、ほぼすべての世帯に影響を与えています。

こうした時こそ、児童手当を倍額の月額3万円として子育て世帯を支援すべきです。川口市が独自にでも実施することを提案します。同時に、児童手当を筆頭に子育て支援策の所得制限の撤廃も引き続き訴えていきます。

🐾 子育て・教育・高齢者支援を最優先するために、 ハコモノ事業の廃止・見直しで財源を作ります！

- ◆ 最優先事項① 小・中学校の給食費、教材費の無償化
- ◆ 最優先事項② 保育料の引き下げ、第2子以降の保育料無償化
- ◆ 最優先事項③ 介護保険料・国民健康保険税の軽減策の拡充

- ◆ 財源づくり① 建設費だけで300億円とも言われる川口駅への中距離電車停車計画の廃止・見直しにより財源を作ります。
- ◆ 財源づくり② 建設費だけで30億円とも言われる市立美術館計画の廃止・見直しにより財源を作ります。
- ◆ 財源づくり③ 古い計画では60年も前から長期間未整備となっている川口駅周辺の道路建設費（残工事に300億円必要）を見直して、大幅な予算削減をすすめ財源を作ります。

芝地区の南浦和前川線(都市計画道路)の進捗状況について

〈南浦和前川線〉は、前川2丁目から産業道路沿いのファミリーレストラン『フォルクス』とオフィスベンダー川口店のある交差点、芝グランドボール、芝西中とマルエツを通り、その先の小谷場に向かって南浦和駅近くまで伸びる工事中の道路です。

この道路は、完成すれば前川エリアから南浦和駅近くまで抜けるため、芝地区の交通利便性を向上させる大切な道路計画です。しかしながら、事業予算の確保が一番の課題となっており、現時点で事業完了は見通せておりません。

11月下旬に、れいわ新選組の埼玉県政策委員「ほんだ まさき」と一緒に現地を歩き状況調査をしてきました。その後、川口市西部区画整理事務所を訪れ、現状を確認した上で事業促進のための予算確保を求めてきました。

工事の現状ですが、必要な用地買収は約95%済みであり、上水道やガスなどのライフラインの整備も、ほぼ完了しております。ただし、予算不足のため雨水処理のための埋設管設置のメドがたっていないため、道路の使用開始までの年限はハッキリせず、まだまだ時間がかかるとの回答でした。

川口駅周辺にばかり偏重した大型開発(例:①川口駅への中距離電車停車に300億円、②川口駅周辺に集中する道路計画に300億円)を抜本的に改めて、市内の均衡ある発展を見据え、生活道路の維持・管理とともに、地域住民の交通利便性を向上させる幹線道路にこそ、予算を使うべきだと考えます。

当該地区の区画整理の大きな要の一つである〈南浦和前川線〉の開通のために必要不可欠なことは予算です。国からの補助金確保と同時に川口市の予算増額を求めています。



【写真1】小谷場公園脇にて状況確認している
「れいわ新選組 埼玉県(南2区川口市)政策委員 ほんだ まさき」と私(右)

南浦和前川線(都市計画道路)の進捗状況



■南陸橋通りから望む工事現場



■ とうとう「戸塚差間線」の開通メドが立ってきました！ ～順調にいけば2023年度中に開通します～

長年、地域の方から多くの要望が寄せられていた〈戸塚差間線〉の開通メドが立ってきました。

これまで川口市域の工事は完了しているのですが、さいたま市域の工事区間の完了メドが立っていませんでした。

わたし木岡は、これまで何度もさいたま市土地区画整理協会に足を運び、川口市の現状を伝えて1日も早い工事完了と開通を要望してきました。

11月には、れいわ新選組の埼玉県（南2区川口市）政策委員の「ほんだ まさき」と一緒に現地を歩き状況調査をしてきました。

その後、さいたま市土地区画整理協会に確認したところ、来年度（2023年度）予算において、当該箇所の道路舗装までの工事費用を予算要求しており、2023年のさいたま市議会2月定例会で可決されれば、予算が付くとの事でした。

予算が付けば、2023年度中に舗装工事まで完了する予定との事が明らかになりました。工事が完了すれば、すぐに利用開始できるそうです。引き続き地域のための働きかけを行っていきます。



【写真2】川口市側（工事完了）より状況確認している「れいわ新選組 埼玉県（南2区川口市）政策委員 ほんだ まさき」と私（右）

戸塚差間線 工事区間位置図



2023年度工事完了予定区間 （さいたま市側）

【写真3】戸塚差間線側（工事完了）部分とさいたま市側（工事予定）

